

夏秋出しカーネーションの仕立て方法が採花期, 切花品質に及ぼす影響

目時 秀樹・金沢 光俊*・藤井 明彦・肥口 一雄・大場 貞信

(青森県畑作園芸試験場・*東北農政局相坂川左岸農業水利事業所)

Influence of Training on Flowering and Flower Quality in Carnation for Summer and Autumn Production

Hideki METOKI, Mitutoshi KANAZAWA*, Akihiko HUIJI, Kazuo HIGUTI and Sadanobu OHBA
(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station・*Tohoku Agricultural Administration Bureau, Ohsakagawa Sagan Irrigation Project Office)

1 はじめに

青森県におけるカーネーションの切花栽培は近年多くなり、平成3年度の生産額の前年対比は108%で、今後さらに増加すると考えられる。

出荷時期は5月から12月までの8か月間であるが、6月から8月までの出荷数量の割合が70%であるのに対し、切花単価の高い9月以降は急激に減少し、9月から11月までの3か月間の出荷数量の割合は25%にすぎない。

そこで、無加温ビニールハウスを利用した夏秋出し栽培において、仕立て方法が採花期及び切花品質に及ぼす影響を検討した。

2 試験方法

- (1) 供試品種：“ノラセレクト”（シム系）、“タンガ”（地中海系）“スカーレットベル”（エンゼルス系）
- (2) 仕立て方法と摘心回数：①3本仕立て（一回摘心）、②4本仕立て（一回摘心）、③5本仕立て（一回半摘心）、④6本仕立て（一回半摘心）
- 1991年6月8日に5節で1回目の摘心を行い、6月27日に①は3本、②、③、④は4本に仕立てた。③と④は7月4日に2回目の摘心を行い、③は4本のうち1本を、④は4本のうち2本を摘心し、7月23日に③は5本、④は6本に仕立てた。
- (3) 定植期：1991年5月21日（採花期間は8月13日から11月29日までとした。）
- (4) 栽培環境：無加温ビニールハウス
- (5) 栽植様式：うね幅160cm, 条間12~36cm, 株間12cm 6条植え。(31株/m²)
- (6) 施肥量（全量基肥, kg/a）：堆肥200
N : P₂O₅ : K₂O = 1.0 : 1.2 : 1.0
- (7) 区制：2区制, 1区24株。

3 試験結果及び考察

(1) 気温と生育の推移

6月から9月までの各月の最低気温の平均は約13℃以上で推移し生育も順調であったが、10月に入り気温が低下す

るにしたがって、生育・開花とも緩慢になった（図1）。

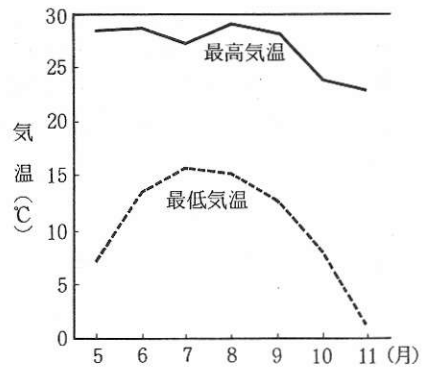


図1 ビニールハウス内の最高気温と最低気温の推移 (地上80cmの気温 測定期間5月1日~11月30日) (1991年 青森畑園試)

品種によって生育速度が異なり、“スカーレットベル”は他の2品種より著しく生育が早かった。

仕立て方法では3品種とも3本及び4本仕立て区の生育が早く、5本、6本と仕立て本数が多くなる区ほど遅い傾向であった（表1）。

表1 生育（7月25日調査）（1991年 青森畑園試）

品 種	仕立て方法 (本)	草 丈 (cm)	側枝長 (cm)	節 数
ノラセレクト	3	36.2	31.6	6.0
	4	37.2	32.9	6.3
	5	33.8	30.6	5.7
	6	31.7	28.3	5.3
タ ン ガ	3	39.2	34.8	7.4
	4	39.3	34.9	7.5
	5	35.7	31.6	6.5
	6	32.6	29.0	5.9
スカーレットベル	3	66.9	61.1	10.8
	4	66.9	62.3	9.9
	5	53.1	48.9	9.6
	6	43.5	39.9	7.7

(2) 採花期

“スカーレットベル”は他の2品種に比べて採花期が早

く8月からで、“ノラセレクト”、“タンガ”は9月からであった(表2)。

表2 月別株当たり切花数 (1991年 青森畑園試)

品 種	仕立て方法 (本)	月別株当たり切花数(月)				株当たり切花数 (本)
		8	9	10	11	
ノラセレクト	3	0	2.25	0.55	0.10	2.90
	4	0	2.10	1.25	0.30	3.65
	5	0	1.30	1.00	0.60	2.90
	6	0	0.65	0.85	0.55	2.05
タ ン ガ	3	0	1.75	1.10	0.10	2.95
	4	0	1.50	1.65	0.65	3.80
	5	0	1.15	1.55	0.35	3.05
	6	0	0.65	1.00	0.50	2.15
スカーレットベル	3	2.95	0.40	1.30	0.35	5.00
	4	3.30	0.85	1.15	0.55	5.85
	5	2.05	1.90	1.25	0.70	5.90
	6	1.25	2.40	1.70	0.65	6.00

仕立て方法では、“ノラセレクト”と“タンガ”は仕立て本数の少ない区ほど採花期が早くなる傾向であった。

“スカーレットベル”は4本仕立て区が最も早く、次いで3本・5本仕立て区で、6本仕立て区が最も遅かった。これは摘心回数1回の3本・4本仕立て区が、摘心回数2回の5本・6本仕立て区より生育が早く進んだためと考えられる。

採花の最も多かった月は、“ノラセレクト”の3本・4本・5本仕立て区は9月で、6本仕立て区は10月。“タンガ”の3本仕立て区は9月、4本・5本・6本仕立て区は10月。“スカーレットベル”の3本・4本・5本仕立て区は8月、6本仕立て区は9月であった。

(3) 株当たり切花数

“ノラセレクト”と“タンガ”は同じ位で、“スカーレットベル”が最も多かった。

仕立て方法では“ノラセレクト”と“タンガ”が4本仕

立て区が最も多く、3本仕立て区と5本仕立て区は同程度、6本仕立て区が少なかった。5本・6本仕立て区は開花に至らなかった側枝が多く発生したが、10月以降の低温のためと考えられる。“スカーレットベル”は仕立て本数が多い区ほど多かった。

(4) 切花品質

表3 切花品質 (1991年 青森畑園試)

品 種	仕立て方法 (本)	切花数 (本)	切花長 (cm)	節 数	花らい数 (個)	茎 径 (mm)	切花重 (g)
ノラセレクト	3	70.0	71.6	10.7	-	5.0	38.2
	4	88.0	74.7	10.8	-	4.7	36.8
	5	69.0	76.9	10.9	-	4.7	36.7
	6	50.0	78.0	11.1	-	4.8	38.1
タ ン ガ	3	71.0	79.7	10.3	-	5.1	36.3
	4	90.5	83.7	10.7	-	4.9	36.1
	5	72.0	83.7	10.8	-	5.0	36.2
	6	48.0	83.8	10.8	-	4.9	37.1
スカーレットベル	3	118.5	75.5	10.7	6.3	4.0	20.8
	4	140.5	77.0	10.8	6.1	4.0	20.5
	5	141.0	79.0	11.7	6.2	3.8	20.8
	6	144.5	79.0	11.9	6.0	3.8	20.6

3品種とも切花長が70cm以上で良好であった。仕立て方法では、3品種とも仕立て本数が多いほど、切花長が長い傾向であった。節数、花らい数、茎径、切花重には仕立て本数による差は認められなかった(表3)。

4 ま と め

無加温ビニールハウスを利用した5月下旬定植の夏秋出し栽培において、仕立て方法を検討した。

採花期が9月~10月で、株当たり切花数が多く、切花品質の良好な仕立て方法は“ノラセレクト”と“タンガ”は一回摘心による4本仕立て、“スカーレットベル”は一回半摘心による6本仕立てが有利であると考えられる。